

ドラッグインフォメーション

平成 28 年 4 月改訂

販売名	逆性石ケン液 50「ヨシダ」		製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日本薬局方 濃ベンザルコニウム塩化物液 50				
洋名	50% Benzalkonium Chloride Solution		発売年月	1961 年 10 月	
一般名	濃ベンザルコニウム塩化物液		薬価収載年月	1961 年 10 月	
剤形	液剤		薬価	10mL 15.60	健保適用
規制区分	普通薬		日本標準商品分類番号	872616	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2616700Q3061		YJコード	2616700Q3061	
性状	無色～淡黄色の液又はゼリー用の流動体で、 特異なおいがある。 振ると強く泡立つ。		構造式	 <p>R : C₈H₁₇～C₁₈H₃₇でのアルキル基</p>	
組成	ベンザルコニウム塩化物([C ₆ H ₅ CH ₂ N(CH ₃) ₂ R] Cl) の 5.0W/V% 水溶液である。				
効能・効果及び用法・用量	ベンザルコニウム塩化物として				
	効能・効果		用法・用量		
	手指・皮膚の消毒		通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落としした後、0.05～0.1% (本剤 500～1000 倍) 溶液に浸して、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。術前の手洗いの場合には、5～10 分間ブラッシングする。		
	手術部位 (手術野) の皮膚の消毒		手術前局所皮膚面を 0.1% (本剤 500 倍) 溶液で、約 5 分間洗い、その後 0.2% (本剤 250 倍) 溶液を塗布する。		
	手術部位 (手術野) の粘膜の消毒 皮膚・粘膜の創傷部位の消毒		0.01～0.025% (本剤 2000～5000 倍) 溶液を用いる。		
	感染皮膚面の消毒		0.01% (本剤 5000 倍) 溶液を用いる。		
	医療機器の消毒		0.1% (本剤 500 倍) 溶液に 10 分間浸漬するかまたは厳密に消毒する際には、器具を予め 2% 炭酸ナトリウム水溶液で洗いその後 0.1% (本剤 500 倍) 溶液中で 15 分間煮沸する。		
	手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒		0.05～0.2% (本剤 250～1000 倍) 溶液を布片で塗布・清拭するか、または噴霧する。		
	腔洗浄		0.02～0.05% (本剤 1000～2500 倍) 溶液を用いる。		
	結膜囊の洗浄・消毒		0.01～0.05% (本剤 1000～5000 倍) 溶液を用いる。		

毒性	<p>L_D₅₀ (mg/kg) : 経口 (ベンザルコニウム塩化物として) ラット : 445 モルモット : 200 カエル : 30</p>		
使用上の注意	<p>1. 重要な基本的注意</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。 (2) 炎症又は易刺激性の部位 (粘膜、陰股部等) に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。 (3) 深い創傷又は眼に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。 <p>2. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1" data-bbox="279 470 1005 510"> <tr> <td>過敏症^注</td> <td>発疹、痒痒感等の過敏症 (頻度不明)</td> </tr> </table> <p>注) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。</p> <p>2. 臨床検査結果に及ぼす影響</p> <p>本剤で消毒したカテーテルで採取した尿はスルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。</p> <p>3. 適用上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人体 <ul style="list-style-type: none"> 1) 投与経路 : 経口投与しないこと。浣腸には使用しないこと。 2) 使用時 <ul style="list-style-type: none"> ア. 原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 イ. 濃厚液の使用により、皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので注意すること。 ウ. 粘膜・創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。(全身吸収による筋脱力を起こすおそれがある。) エ. 密封包帯、ギプス包帯、パックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので使用しないこと。 	過敏症 ^注	発疹、痒痒感等の過敏症 (頻度不明)
過敏症 ^注	発疹、痒痒感等の過敏症 (頻度不明)		
	<p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 調製方法 繊維、布 (綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等) は本剤の成分であるベンザルコニウム塩化物を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。 2) 使用時 <ul style="list-style-type: none"> ア. 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合には、十分に洗い落としてから使用すること。 イ. 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。 ウ. 皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に容器に溶液に浸すこと。 3) 器具等材質 <ul style="list-style-type: none"> ア. 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等への使用は避けることが望ましい。 イ. 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐食を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1% (本剤の500倍) 溶液に0.5~1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。 ウ. 皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので使用しないこと 		
薬効薬理	<p>本剤は使用濃度において、細菌、真菌に広く抗菌作用を有する。すなわちグラム陽性菌、グラム陰性菌のみならず、カビ類に対しても抗菌性を有するが、結核菌及び大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。</p> <p>本剤は陽イオン界面活性剤であるので、表面張力を低下し、清浄作用、角質溶解作用、乳化作用を示すが、殺菌の作用機序に関して、陽イオンが微生物に侵入して、他の必須イオンと置換するまたは酵素系を不活性化させるともいわれている。</p>		
文献請求先	<p>吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10</p>		